

新任副検事からのメッセージ



本年度任官した副検事を紹介します



副検事の仕事を教えてください！

副検事の仕事は、大きく分けて捜査と公判に分かれます。

捜査は、様々な事件について、被疑者を取り調べたり、警察に補充捜査を指揮したりして真相を解明し、被疑者の適正な刑事処分を決めるものです。必要があれば、事件の被害者や参考人の聴取も行います。

公判は、捜査の末、起訴した被告人（被疑者のことを、起訴後は被告人と呼びます。）の裁判を担当します。被告人に対して適正な刑が言い渡されるよう、検察官は証拠書類を提出したり、証人尋問をしたり、検察官の意見を述べたりします。

法学部じゃなくても副検事になれますか？

学部は全く関係ありません。

私は文学部出身で、民間から転職して検察庁に入庁しました。

正直、大学生の頃は法律家の道なんて1ミリも考えていませんでした。

もちろん大多数の検察官が法学部出身ですが、私がこれまで出会った検察官の中には、理系出身の方もいましたし、バックグラウンドは人それぞれ、全く関係ありませんよ！

副検事を志したきっかけは何ですか？

事件（や事故）に関わる仕事は、弁護士や警察、マスコミ等、たくさんあります。しかし、その中でも、事件の最初から最後まで携わることができ、かつ被疑者や被害者から中立的に話を聞くことができるのは検察官だけだと思い、そこに魅力を感じました。

副検事のやりがいは何ですか？

真相を解明していく過程はとてもやりがいがあると感じています。



時には、防犯カメラの映像やスマートフォンのデータをひたすら見続けるなど、根気のいる作業が続くこともありますが、そういった地道な捜査の末に、新たな証拠が見つかったと、静かな興奮があります。

また、女性の副検事は全国で約4%と、とても少ない状況です。性犯罪など、事件の性質上、どうしても女性の検察官が必要とされる場面は多くありますので、プレッシャーはありますが、被害者に寄り添い、被疑者に適正な刑事処分ができた際には、達成感があります。



学生の皆さんへメッセージ

検察庁での仕事は、副検事に限らず、事務官であってもやりがいのある仕事です。

検察事務官として入庁後、間近で検察官が働く姿を見て、副検事を志す人も多くいます。

まずは検察庁で働くことを、進路の選択肢の1つとして考えていただけたらうれしいです。